

浪曲映画祭

情念の美学

浪曲 1 **権三と助十**
 口演・五川太福 曲師・玉川みね子
 せめて人情くらいなくちや、この世に生きてる甲斐がないよ

いろは長屋に住む権三と助十は、駕籠かきの兄弟分。ある晩のこと、通りかかった松の根方に、十六夜の月の光に照らされた大きな葛(つづら)。「きつと着物と帯で一杯だ。大金もうけだ」と喜んで長屋に持ち帰るが、蓋を開けてみれば鼻先へ、ぶんと匂った生臭さ……。ちよっぴり怪談風人情話・前編。

24日(金)「槍おどり五十三次」上映後

浪曲 2 **誉れの三百石**
 口演・五川太福 曲師・玉川みね子
 騙されて心地良く咲く室の梅

吉良の首を討ち取った赤穂浪士四十七士。明けて元禄16年2月、義士一同へ切腹の命が公儀より下る。堀部安兵衛の介錯人を任されたのが、足軽・荒川中太夫。いざ切腹という時、安兵衛に身分を問われた十太夫は思わず「物頭役で三百石…」と偽りを述べてしまい……。赤穂義士外伝の一席。

24日(金)「続・座頭市物語」上映後

浪曲 3 **天野屋利兵衛**
 口演・天中軒雲月 曲師・沢村美舟
 天野屋利兵衛は男でござる!

商人・天野屋利兵衛宅から見つかった大量の武器。誰に頼まれた集めたと、大坂町奉行松野内守が追及するが、頑として口を割らない。奉行は天野屋の幼い侍を呼び、白状しなければ火攻めにかけて利兵衛を脅す。だが利兵衛は屈しない。頼んだ相手を言ったなら、浪士たちの苦勞はその一言で水の泡……。どうなる天野屋。

24日(金)「大阪町人」上映後

浪曲 4 **河内山玄関先**
 口演・木村勝千代 曲師・沢村まみ
 おつと姉や。驚きなさんな。おじさんがついてらあな

雲州松江のお殿様に気に入られた上州屋の一人娘のおなみ。妾にならなければ死体で下げ渡すと言われ、上州屋は頭を悩ましていた。そこに登場したのが、お教寄屋坊主の河内山。松江邸の殿様を向かうに回してもおなみを助けやると一思案。上野寛永寺の一品親王官家の使僧へと化け込み、松江邸にと乗り込む。

25日(土)「天保泥絵草子」上映後

浪曲 5 **河内山と直侍**
 口演・五川太福 曲師・沢村まみ
 見あらわされて五分だ。河内山ならどうしたてんでない、馬鹿め!

上野黒門町上州屋の娘・お浪を見事に雲州出羽守公の屋敷から取り戻した、お教寄屋坊主の河内山宗俊。上州屋からお札に五百両という金をもらい、盆と正月赤いべんに来たような大騒ぎ。ところがこの噂を聞きつけたのが、本郷大根畑に住まいする御家人崩れの片岡直次郎。河内山も悪党なら、直次郎も悪党、二人の器量の探り合い。

25日(土)「河内山宗俊」上映後

浪曲 6 **俵屋玄蕃**
 口演・真山準人 曲師・沢村さくら 作・池上勇
 いかに浪人すればとて、武士と生まれてきたからは魂だけは売りはせぬ

豆腐屋上総屋七兵衛が一人の男に声をかけられる。男は豆腐を一丁頼み、その場でがつがつと食べてしまう。数日の間豆腐を食べるものの払いはなく、出世払いをしたいと言いつつ、その心意気に感心した七兵衛は、毎日オカラを届けるがある時寝込んでしまう。体調の戻った七兵衛、男の長屋へ行くが家を引き払った様子。そんな中七兵衛の店が火事で焼失、呆然としている所へ…。

26日(日)「義士始末記」上映前

浪曲 7 **俵屋玄蕃**
 口演・真山準人 曲師・沢村さくら 作・室町京之介
 武士と云うたら杉野氏、それでは拙者の武士道がたたぬ廢れる地に落ちる忠義の二字に相すまぬ

いよいよ討ち入りが近くなり、赤穂浪士の面々は姿を替えて江戸へと向かった。浪士の一人杉野十平次は善斎屋に身を替えて、吉良の屋敷あたりを探るうちに、槍の使い手俵屋玄蕃と親しくなる。そんな折、ある日俵屋の道場を訪ねるといつもよりやっつけ果てた玄蕃の姿がある。話に訊けばこれ皆赤穂浪士の為だという。男と男、武士と武士の友情物語。

26日(日)「忠臣蔵 暁の陣太鼓」上映後

浪曲 8 **忠次関宿落ち**
 口演・国本はる乃 曲師・沢村美舟
 男の風上にも置けねえ野郎だ

不動の新助の名で世を渡っていた国定忠治、ひよんな事から友太郎という小僧と出会う。聞けば亀家満蔵という男の為に父親は殺され姉は無理矢理女房にさせられてしまうという。聞いたからは素通りできぬと姉を助け出した忠治、それから二十年経った風の晩、お尋ね者となった忠治を追ってきた一人の男。果たしてそれは……!!

27日(月)「狐の呉れた赤ん坊」上映後

浪曲 9 **男はつらいよ 第8作 寅次郎恋歌**
 口演・五川太福 曲師・玉川みね子
 俺みてえな馬鹿でもよ、潮時くれえは考えてるさ

母の訃報を受け、岡山県備中高梁へむかった博とさくら。寅さんも葬儀に駆け付け、その元に残ることに。「本当の人の暮らし」を教わり、改心した心持ちで柴又へ戻った寅さんの前に、女手一つで小学生の息子を育てる六波羅貴子が現れて…。マドンナ・貴子を池内淳子、麗一郎を志村喬が演じるシリーズ第8作を、太福が浪曲化。

27日(月)「おけさ姉妹」上映後

映画 1 **槍おどり五十三次**
 24日(金) 12:00

武士を夢見る下郎・権三の悲壮な物語を描いた傑作

もともとは伊藤大輔が阪妻主演で撮る予定だった作品。主役が右太衛門になったことで伊藤大輔が降り、伊藤の「お前、やれ」の一言で森一生に監督がまわってきた。武士を夢見る槍持ちの下郎・権三(ごんざ)が、保身のために彼に罪を着せた悪辣な武士連中によって切腹を迫られる。死を美学とする武士道の欺瞞を痛烈に批判した伊藤大輔の脚本は、後に「この首一万石」として伊藤自身がメイクしている。

1946年/大映京都/77分/F(提供:国立映画アーカイブ) 監督:森一生 脚本:伊藤大輔 撮影:宮川一夫 出演:市川右太衛門、藤村光三郎、月形龍之介、喜多川千鶴、上田寛、伊志井寛、嵐徳三郎、香川良介、原野四郎

映画 2 **続・座頭市物語**
 24日(金) 14:20

勝新太郎・若山富三郎の兄弟が対決するシリーズ第二作

勝新太郎の二大ヒットシリーズ、「座頭市」、「悪名」は、それぞれ三隅研次、田中徳三がトップバッターを務めた後、森一生が職人技でシリーズを定着させていった。「座頭市」は子母沢寛が「天保水滸伝」のスピノフとして創作した物語だが、悪役・飯岡助五郎がこの第二作でも登場する。第一作で心ならずも斬った平手造酒の一周忌を訪れた市。そこに、市に片腕を切られ恨みをもつ兄・与太衛門が現れる。

1962年/大映京都/72分/F 監督:森一生 脚本:大塚稔 出演:勝新太郎、水谷良重、万里昌代、城隍三郎(若山富三郎)、中村豊、沢村宗之助、柳永二郎、伊達三郎、杉山昌三九、嵐三右衛門、山路義人、春本富士夫、若杉曜

映画 3 **大阪町人**
 24日(金) 16:40

天野屋利兵衛を描いた忠臣蔵外伝

「天野屋利兵衛(あまのやりへん)は男でござる」の決め台詞で有名な天野屋利兵衛を描いた作品。大石蔵助の依頼で武器の調達を請け負った大阪の豪商・天野屋利兵衛は、禁制品の縄梯子を子供が持ち出したことで、西町奉行に嫌疑をかけられ、捕縛される。依頼主は誰かと拷問されるが、黙秘を続け、商人道を貫く姿を、森一生監督が淡々と描く。頑固一徹な天野屋利兵衛を剣戟スター・羅門光三郎が好演する。

1942年/大映京都/69分/F(提供:国立映画アーカイブ) 監督:森一生 脚本:冬島泰三 出演:羅門光三郎、阿部九州男、荒木忠、東良之助、嵐徳三郎、若山富三郎、高田徳右衛門、石黒達也、桐竹十郎、島田敏一、琴糸路

映画 4 **不知火検校(しらぬいけんぎょう)**
 24日(金) 18:45

「座頭市」の原型となった勝新ピカレスクロマンの傑作

森一生監督の代表的傑作で、勝新太郎の「座頭市」シリーズの原型となった作品。それまで白塗りの二枚目スターであった勝新太郎が、坊主頭の盲目の按摩師、しかも大悪党を演じるという大胆な企画(元ネタは歌舞伎)に挑んだ森一生は、これをゾクゾクするピカレスクロマンの傑作とし、自らの名声と、のちの勝新のイメージ(何者にも怯まぬ強さを持ち、己の欲望に忠実で、どこか笑いを誘うヤクザな男)を確立した。

1960年/大映京都/91分/D 監督:森一生 脚本:大塚稔 出演:勝新太郎、中村玉緒、近藤美恵子、鶴見文二、丹阿彌三郎、倉田マユミ、安部徹、須賀不二男、浜世津子、若杉曜子、伊沢一郎、光岡龍三郎

映画 5 **天保泥絵草子**
 25日(土) 11:30

サイレント時代に映画化された「天保六花撰」。

「天保六花撰」を映画化した昭和3年のサイレント映画。舞台は天保時代の江戸の町。直次郎の恋人に花魁の三千歳は、見受け話に難渋していた。一方、奉公先のお城の殿様から妾になることを強要されている上州屋の娘・お浪を救い出すために、河内山宗俊は自身を偽って松江邸へ乗り込み首尾よく救出するが、いざ去ろうとする時、「とんだ所へ北村大膳」、家臣の北村大膳に、その正体を見破られてしまう。

1928年/帝キネ/59分/無声/D(提供:国立映画アーカイブ) 監督:山下秀一 脚本:上島豊 出演:明石緑郎、阪東妻三郎、中村錦之助、尾上松二郎、松村鶴子、尾上紋十郎、嵐徳三郎、南愛子

映画 6 **河内山宗俊**
 26日(土) 13:30

ヤクザな男たちの男気がほとぼしる山中貞雄の傑作

教寄屋坊主の河内山宗俊は甘酒屋の娘・お浪が可愛いって仕方ない。もう一人、地のヤクザの用心棒・金子市之丞もお浪にぞっこん。そのお浪には広太郎というチンピラの弟がいるが、広太郎は直次郎という偽名で河内山と意気投合している。広太郎がお城の家臣・北村大膳の由緒ある小柄(こづか)を盗んで質屋に売り払い、そこから物語は思わぬ方向へ転がってゆく。原筋が注目集めることになった最初の作品でもある。

1936年/日活/87分/D 監督:山中貞雄 脚本:三村伸太郎 出演:河内山宗俊、中村錦之助、市川右太衛門、山岸しづ江、原節子、坂東彌太郎、市川崑(加東大介)、清川桂子、高勢英策、鳥羽蘭之助

映画 7 **江戸遊民伝**
 25日(土) 16:20

山中貞雄の弟子による「河内山宗俊」の完全リメイク

山中貞雄「河内山宗俊」のリメイク。河内山を近衛十四郎が貫禄たっぷりに演じ(もちろん坊主頭)、市之丞を新劇俳優・宇野重吉が颯々と演じている。監督・萩原遼は後に「笛吹童子」「紅孔雀」で名を馳せるが、助監督時代、1歳年上の山中貞雄を師匠として「丹下左衛門伝」百萬両の壺」のチーフ助監督を務めている。オリジナル版で欠落している広太郎と三千歳のラブシーンから心中までの件などが、この映画でわかる。

1959年/松竹/104分/F 監督:萩原遼 脚本:山中貞雄、三村伸太郎 出演:近衛十四郎、宇野重吉、松本錦四郎、香川京子、嵯峨三智子、山花実久、藤間紫、小笠原省吾、沢村国太郎、永田光男

映画 8 **勢揃い大江戸六人衆**
 25日(土) 19:20

喜劇の神様・斎藤寅次郎による「天保六花撰」パロディ版

「ドタバタの寅さん」と呼ばれ、サイレント映画時代から生涯に200以上のスラップスティック・コメディをつくらった斎藤寅次郎監督による「天保六花撰」のパロディ。河内山宗俊は花菱アチャコ、暗闇の辻松は伴淳三郎、片岡直次郎は北山弥太郎、花魁三千歳は宮城千賀子、松平出雲守は益田喜頓、北村大膳は田中謙三を配役。堺駿二、浪花千栄子らも顔を揃えている。しゃべり漫才の始祖「エンタツアチャコ」コンビの花菱アチャコが絶品。

1953年/松竹/96分/F 監督:斎藤寅次郎 脚本:八住利雄 出演:花菱アチャコ、伴淳三郎、北山弥太郎、田中謙三、永田光男、益田喜頓、堺駿二、香川京子、宮城千賀子、浪花千栄子、千秋みつる

映画 9 **義士始末記**
 26日(日) 12:20

赤穂義士の切腹を主張した男・萩生徂徠

元禄十五年、赤穂四十七士が本懐を遂げた後、世間が彼らを称賛する中、幕府はその処遇に苦慮したが、あえて「切腹」を主張したのが、儒学者・萩生徂徠(おきょうそらい)であった。情けを退け、法に則つたその決定は、世の反発を招くが、徂徠に関わりを持つ二人の女性、いずれも赤穂義士を弟と恋人に持つ二人から、徂徠は怨嗟の眼差しを浴びることになる。『大忠臣蔵』(1957年)を短縮した作品の後編として公開。

1962年/松竹京都/82分/F 監督:大曾根辰夫 脚本:野村南海男 出演:島田正吾、川津和子、岡田茉莉子、若下志麻、市川右子、千之赫子、川津祐介、山村聰、柳永二郎、大村茂、芦屋雁之助

映画 10 **忍法忠臣蔵**
 26日(日) 14:15

お色気ノ一軍団が赤穂浪士に挑む忠臣蔵パロディ

忠臣蔵を換骨奪胎した作品は、数多くある。この作品は、山田風太郎原作の「ノ一」シリーズの第3作としてつくられた、お色気傑作劇。松の廊下における浅野内匠頭、刃傷事件の勃発を受け、伊賀忍者・無明網太郎は、上杉家・千坂兵部から「赤穂浪士の仇討ちを未然に防いでほしい」と頼まれる。無明網太郎は、大石内蔵助を始め、赤穂四十七士を女の色香に溺れさせて骨抜きにしよう、とノ一を送り込む。

1965年/東映/83分/F 監督:長谷川安人 原作:山田風太郎 脚本:加藤繁、高田宏治 出演:丹波哲郎、五十嵐義弘、西村謙、桜町弘子、岡島艶子、大浦和子、三島ゆり子、大木実、小林昭二、南都雄二、田中邦衛

映画 11 **忠臣蔵 暁の陣太鼓**
 26日(日) 16:15

のんだくれ安と俵屋玄蕃 赤穂義士のスター ふたりが殺陣で見せる

高田馬場の決闘で男をあげた「のんだくれ安」の異名を持つ中山安兵衛。その安兵衛に惚れていたお勝は、安兵衛が堀部家の養子になったことで諦め、女剣客・三日月お勝となり、剣客・俵屋玄蕃の門を叩く。やがて赤穂事件が起き、安兵衛は義士となるが、一方、仇討ちを恐れる吉良家は玄蕃に加勢を頼みこむのだった…。近衛十四郎が「元禄名槍伝 豪快一代男」に続いて再び俵屋玄蕃を演じ、見事な殺陣を披露している。

1958年/松竹/97分/F 監督:倉橋良介/脚本:中沢信、田辺朝日/出演:森美樹、嵯峨三智子、近衛十四郎、名和宏、榎本健一、沢村国太郎、市川右太衛門

映画 12 **狐の呉れた赤ん坊**
 27日(月) 12:00

捨て子を我が子として育てる男を描いた人情時代劇

阪東妻三郎の戦後第一回主演作品。GHQによってチャンバラが禁止されていた中、剣戟スター・阪妻が人情時代劇に挑み、新境地を開いた。大井川の川越人足で乱暴者の寅八は、街道筋に狐が出ると聞き、退治に行くが、そこで捨て子の赤ん坊を拾い、善太と名付けて育てる羽目になる。七年の歳月が経ち、実の父子のように仲睦まじく暮らす二人だったが、善太の意外な出生の秘密がわかり、二人に別れる日が訪れる。

1945年/大映京都/85分/F(提供:国立映画アーカイブ) 監督:山本薩夫 出演:阪東妻三郎、羅門光三郎、阿部九州男、橋本公三、沢村マサヒコ、光岡龍三郎、見明凡太郎、原健策、荒木忠、香川良介

映画 13 **嵐**
 27日(月) 14:20

男手ひとつで四人の子供を育てる父を笠智衆が演じる

時代劇の巨匠・稲垣浩には、「手をつなぐ子等」など子供の世界を描いた秀作がある。「嵐」は、妻に先立たれた大学教授が、男手ひとつで三男一女の4人の子供を育て上げるまでの20年間を描いた作品。小津映画の名優・笠智衆が主演。どこか懐かしいながらも、暖かい愛情で子供たちを育てあげる主人公の、嵐のような奮闘を好演している。ばあやを演じる田中絹代、末娘を演じる雪村いづみ(19歳)も素晴らしい。

1956年/東宝/108分/F 監督:稲垣浩 脚本:菊島隆三 出演:笠智衆、山本薩夫、大塚国夫、久保明、雪村いづみ、田中絹代、加東大介、清水元、中北千枝子、東郷晴子、山田巳之助、江川千鶴

映画 14 **父子草**
 27日(月) 16:40

渥美清が心根のやさしい 乱暴者を演じた、隠れた名作

戦後、外地からの帰還が遅れたことで戦死したと思われ、妻が弟と結婚してしまつた男・義太郎は、全国の工事現場を歩き歩いていたが、貧しい予備校生の母と出会い、仕事と勉強の両立で倒れたその子のために、学費を稼ごうと必死になる。木下恵介の脚本を丸山誠治監督が手堅く演出。粗糲だが心根のやさしい50男の主人公を、渥美清(39歳)が演じる。渥美清の隠れた名作として、今でもクチコミが広がっている。

1967年/東宝/85分/F 監督:丸山誠治 脚本:木下恵介 音楽:木下恵介 出演:渥美清、淡島千景、石立鉄男、星里子、大辻尚江、浜村純

映画 15 **おけさ姉妹**
 27日(月) 18:30

ヤクザな父と二人の娘を描いた浪曲映画

佐渡の灯台に勤めるすみ子とみつ子の姉妹。男手ひとつで二人を育てる父親・常吉はヤクザ者で、姉妹に苦勞を背負わすこともしばしば。すみ子の恋人に新聞記者の吉田は、常吉と土地のヤクザの喧嘩に遭遇し、新聞に書き立てる。一方、常吉はみつ子の担任に、実は母親が生きているとしゃべってしまう。浪曲映画の名手・伊賀山正光による、佐渡を舞台にした「父の」。デビューしたの佐久間良子(19歳)がかわいい。

1958年/東映東京/59分/F(提供:国立映画アーカイブ) 監督:伊賀山正光 音楽:木下恵介 浪曲口演:天津羽衣、二葉百合子 出演:進藤英太郎、松島トモ子、佐久間良子、今井俊二、月丘千枝、吉川満子、花澤徳衛